

# も 藻 ば 場



## 目 次

藻場とは  
藻場の役割  
藻場づくり

 香 川 県

# 藻場とは

藻場とは、海草や海藻が群落をつくって育成しているところをいいます。

海草とは、花をつける海生植物のことで、代表はアマモです。

海藻とは、花をつけない海生植物のことで、葉の色によって緑藻類、褐藻類、紅藻類に分けられ、多くの種類があります。

このうち、魚介類の産卵、育成場として重要な藻場は、アマモが群落をつくっている**アマモ場**(アジモ場ともいいます)と褐藻類のホンダワラ類が群落をつくっている**ガラモ場**です。ほかの種類の海藻が群落を作っているところも藻場と呼ばれますが、ここでは、この2種類に絞って説明します。

## 海藻と海草の主な種類

		主な種類	主な用途
海藻	緑藻	アサオ、アオノリ	ふりかけ
		ヒトエグサ	つくだ煮
	褐藻	コンブ	乾物
		ワカメ	干しわかめ、塩わかめ
		<b>ホンダワラ類(ガラモ)</b>	
	紅藻	ノリ	干しのり
テングサ		ところてん	
海草		<b>アマモ</b>	

アマモは、砂や泥に根を張って成長し、花から種子もでき、株分かれても増える、陸上でいえば稲に近い植物です。長さは1~2mくらいになります。

ホンダワラ類は、岩や石などに付着して成長し、胞子で増えますが、特徴は気胞と呼ばれる空気の入った小さなつぶがあることです。香川県で主にみられる種類は、アカモク、タマハハキモク、ヨレモク、ヒジキ、ウミトラノオなどです。長さは普通1~3mくらいですが、長いものは5m以上になります。

アマモ、ホンダワラ類とも、海中では底から立ち上がり林のようになります。

十分な光がないと育たないので、香川県内で生息できる場所は干潮線前後から水深10mくらいまでのごく浅い海域に限られています。



アマモ



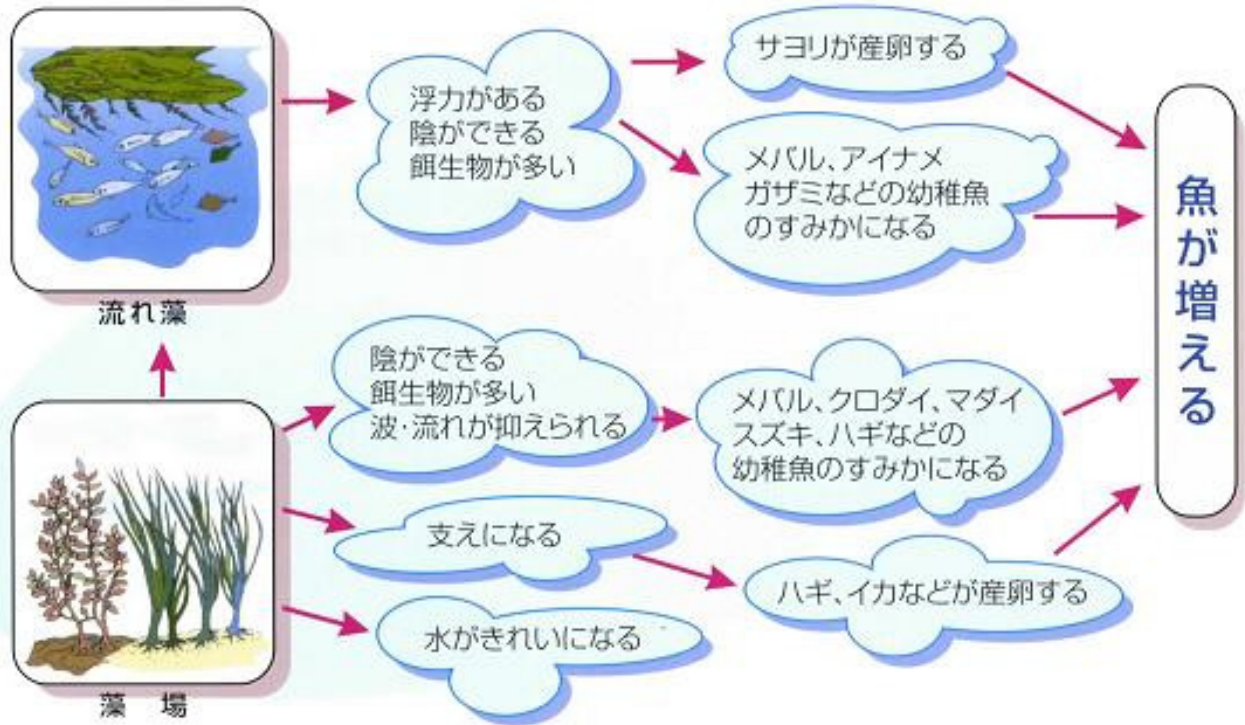
ガラモ



気胞

# 藻場の役割

藻場は、多くの種類の稚魚のたいせつなすみかであり、産卵場です。



アマモ場で育つ稚魚



ガラモ場で育つ稚魚



アマモに産み付けられたアオリイカの卵



流れ藻に産み付けられたサヨリの卵

# 藻場づくり

かつて、香川県の沿岸には、アマモ場、ガラモ場がたくさんありました。しかし、埋立や環境の悪化などによって、多くの藻場がなくなってしまいました。

そこで、香川県の水産試験場をはじめ、多くの府県で、藻場を復活しようと研究しています。

アマモ場については、長年の研究により、アマモの生えやすい条件などが徐々に明らかになってきました。

ガラモ場については、水産試験場の研究の結果、効率的に造成できることがわかり、平成9年度から県内各地の沿岸においてガラモが生えやすく、稚魚の生息しやすい藻礁と呼ばれるコンクリート製の構造物や岩石を設置しています。

以前のような藻場が復活でき、魚がたくさん育つ海になればいいと考えています。



種々の藻礁の設置状況



藻礁に生えたガラモ



藻礁内に生息するメバルなどの稚魚